「市民バスのある風景」フォトコンテスト

市民バスが走る風景やバス停などを題材にした写真を通じて、市民バスの利用促進と地域の魅力を再発見することを目的に、フォトコンテストを開催しました。応募のあった69作品のうち、入選した10作品を紹介します。皆さんも心に残る風景と新しい出会いを探しにバスで出かけてみませんか。

最優秀賞「暮らしと季節をつなぐ」　柴田 裕紀 さん＝南方町新高石＝

優秀賞
「帰ってきたよ～」
千葉 祥代 さん＝迫町倉崎＝

優秀賞
「安全運転お疲れ様、と大先輩」
佐藤 恒喜 さん＝迫町山の上＝

優秀賞
「石越保育所前バス停と向日葵」
千田 久勝 さん＝石越町第四＝

キッズ賞
「バス停にある『巻子ども会』の花だん」
羽生 七音 さん＝中田町巻＝

登米市長賞
「我が故郷のメインストリート」
佐藤 菜緒 さん＝迫町光ヶ丘西＝

審査委員長特別賞
「田園を走る」
佐藤 正人 さん＝東和町米川９区＝

ミヤコーバス賞
「ワクワク」
千葉 亘 さん＝迫町立戸＝

ミヤコーバス賞
「老若男女～ミヤコーバスから育つ思いやりの心～」
羽生 芳恵 さん＝中田町巻＝

審査委員長特別賞
「家路」
佐藤 寿好 さん＝東和町米谷６区＝

暮らしのそばに思い出のバス

最優秀賞
柴田 裕紀 さん
＝南方町新高石＝

写真を始めて２年になります。まだまだ自信はないですが、初めて応募したコンテストで、プロの写真家に認めていただき、これからも続けていこうという気持ちになりました。この写真は、普段の散歩コースである、南方千本桜周辺の風景です。車やバイクを入れた写真を撮影していたところ、偶然バスが通り撮影。その後、今回のコンテストのことを知り、縁を感じて応募しました。子どもの頃はミヤコーバスに乗って通学していたので、バスを見ると懐かしさがあります。最近、バスの利用率が下がっていると聞いたので、この写真を見て、「バスに乗ってみようかな」と感じる人が増えてくれたらうれしいです。

日常の中で出会う登米市の魅力

審査委員長
鉄道写真家 武川 健太 さん
＝南方町出身＝

今回の応募作品は、登米市の魅力を五感で感じながら撮ったと想像する作品ばかりでした。技術もさることながら、特に印象的だったのは、愛をもって「ここを見て！」という思いが感じられる作品が多く、尊い景色を見ることができました。

市民バスは暮らしに近い交通機関ということもあり、当たり前の日常の安心感や昔を思い出すような懐かしい風景を見て、撮影した人からも作品を見た人からも、「改めて登米市の美しさ、素晴らしさに気付いた」という声が聞こえました。

この写真たちを通じて、登米市の魅力が広く発信され、人と人との交流が生まれ続ける未来に期待します。